

相談業務を終えた総合ケアセンターの一室。スマートフォンを操作し終えて、温かな口調で迎えてくれた町嘱託医であつまクリニックの理事長兼院長の石間巧さん。アイスホッケーを愛する町のお医者さんです。「いつか、リンクで滑りたい」という希望を抱きながら、地域医療に情熱を注ぐ石間さんに話を伺いました。



町嘱託医  
あつまクリニック理事長兼院長  
Vol.44 いしま たくみ  
石間 巧さん

## 心身共に健康な地域づくりを

厚真町出身で、週5日は厚真で生活し、週末に札幌市厚別区の自宅に戻ります。近所に住む溺愛の孫を中心に、自宅での時間が流れていると教えてくれました。妻と食事をとる時も孫の話は尽きません。「男の子で、可愛くてね。幼稚園に迎えに行ったり、買い物に行ったり。今が、一番可愛い時期ですよ」と目尻が下がりました。

あつまクリニックでの診療のほか、苫小牧市内での整形クリニックで外来の往診を手伝い、月に1回は1泊2日で釧路市内の病院で往診します。「当直明けに外来の診察を行い、午後から看護学生に講義して戻ります」。移動は、飛行機。飛行時間は30分ほどですが、待ち時間などを入れると1時間ほどかかります。「年に何度かありますが、帰りの便が霧などで欠航になると列車でしょう。4時間余りかかるので、ドックとくたびれます。また、追い打ちをかけるように鹿と列車の衝突事故で、足止めになったこともあります。

走り回る車掌さんを見て『大変だな』って気の毒に思っていますね」。

新型コロナウイルス感染症は今春、インフルエンザと同様の取り扱いになりました。「コロナ株が弱くなり、重篤化も低くなった。反面、ソーシャルディスタンス（社会的距離）が忘れられてきている」と危惧します。「感染症は繰り返し返すと言われるので、手洗いやうがいなどを励行し、正しく恐れる習慣を忘れないで欲しいですね」。

町民への印象を聞いてみると、即答で「気の置けない人」との言葉が返ってきました。診察室にかかわらず、日々欠かさない仕事帰りのお風呂や飲食店など、長年積み重ねた人付き合いから生まれる信頼関係を凝縮した言葉に聞こえました。

「日常生活を普通に送れることが、最も幸せなこと。感染症予防に加えフレイル（心身共に虚弱）にならないよう、これからも皆さんに向き合っています」と思っています。

厚真で暮らす人、働く人、応援してくれる人、訪れる人・・・  
みんな、みんな、**ATSUMA LOVERS**